

## 教育委員会 平成27年度8月4日臨時会の概要

- 日時 平成27年8月4日（火）  
9時30分開会 14時55分閉会
- 場所 鎌倉市役所 講堂
- 出席委員 下平委員長、齋藤委員、朝比奈委員、山田委員、安良岡教育長
- 傍聴者 152人

### ○本日審議を行った案件

- 日程1 協議事項 平成28年度使用中学校教科用図書の選定について
- 日程2 議案第20号 平成28年度使用中学校教科用図書の採択について

### 下平委員長

定足数に達したので、委員会は成立した。これより8月臨時会を開会する。

本日の会議に際して、新聞社より写真撮影をしたい旨の申し出があった。撮影を許可してよろしいか。

（全員異議なく、撮影を許可することとした。）

### 下平委員長

傍聴者の皆様方においては、入退室は休憩時間中に、また、ご退室の際には議事日程及び議案集を傍聴者議案集回収箱にご返却願いたい。

本日の会議録署名委員を齋藤委員にお願いする。

本日の議事日程は、お手元に配付したとおりである。

本日は、平成28年度使用教科用図書の採択関連のご審議をいただくが、中学校使用教科用図書の採択についてはこれまでと同様、まず協議事項として協議し、その結果を踏まえ、議案第20号でご審議いただくことにしたいと思う。

では日程に従い議事を進める。

### 1 協議事項「平成28年度使用中学校教科用図書の選定について」

### 下平委員長

日程第1、協議事項「平成28年度使用中学校教科用図書の選定について」を議題とする。事務局から説明をお願いする。

### 教育指導課長

日程第1、協議事項「平成28年度使用中学校教科用図書の選定について」説明させていただきます。

議案集の4ページ目をご覧ください。これは、7月27日に鎌倉市教科用図書採択検討委員会委員長から教育委員会に報告された平成28年度使用中学校教科用図書調査研究報告書である。この報告書を参考に、平成28年度使用中学校教科用図書の選定についてご協議をいただくことになるが、それに先立ち、この報告書作成までの経過についてご説明する。

本年4月の教育委員会で、平成28年度使用教科用図書の採択方針を議決していただいた。その採択方針に基づき、平成28年度使用小学校及び特別支援学級教科用図書については7月の定例教育委員会で採択いただき、継続採択となった。ここでは、中学校の平成28年度使用中学校教科用図書を採択していただくことになる。

まず、採択方針に基づき、鎌倉市教科用図書採択検討委員会を5月に設置した。第1回検討委員会を5月8日に開催し、教育委員会で採択するに当たり、参考となる資料を作成するよう教育長から検討委員会に依頼した。検討委員会では、参考となる資料を作成するに当たり、各発行者から送付された教科用図書見本の調査研究の専門的事項に関する資料を作成するため、各種目に調査員を置き、依頼内容に基づき、調査員に教科書の調査研究を指示した。調査員は各種目2～5名で、市立中学校教員による15種目44名で構成した。

次に、第1回検討委員会を受け、5月15日に第1回調査員会を開催し、調査活動に入った。調査員会は6月17日と6月26日を含め全3回開催し、調査資料を作成した。この作成された調査資料を基に7月9日に開催した第2回検討委員会で調査内容の検討に入るとともに、総合評価についても協議をした。総合評価については3段階とし、星の数を1つから3つで表記することとし、種目ごとに協議、検討をした。星3つは鎌倉の生徒によりふさわしいと検討委員会で判断した教科書、星2つは鎌倉の生徒にふさわしいと検討委員会で判断した教科書、星1つはそれ以外のものと評価した。7月22日に第3回検討委員会を開催し、総合評価と評価の内容を引き続き協議し、報告書をまとめた。以上が経過となる。

続いて、報告書についてご説明する。

お手元の「平成28年度使用中学校教科用図書調査研究報告書」は、鎌倉市教科用図書採択検討委員会委員長から7月27日の報告を受け、教育委員の皆様へお届けしたものである。表紙をめくっていただき、種目「国語」をご覧ください。左上に種目が示されている。表については左の項目から「発行者番号」、「発行者略称」、「書名」となっており、文部科学省から送付された中学校用教科書目録に示されたものである。総合評価については、先ほど経過の中でお伝えしたが、星3つは鎌倉の生徒によりふさわしいと検討委員会で判断した教科書、星2つは鎌倉の生徒にふさわしいと検討委員会で判断した教科書、星1つはそれ以外のものとなっている。「総合評価の内容」については、検討委員会で協議した内容を教科用図書ごとにその特徴を記述した。この形式で15種目全ての教科書の報告がされている。以上で報告書の作成経過と報告書についての説明を終わる。

平成28年度使用中学校教科用図書の選定については、1種目ずつご協議をいただき、

鎌倉の生徒にとって最もふさわしいものを選定していただくようお願いする。

また、調査内容の詳細に関するご質問については、調査員会を担当していた指導主事からお答えすることを許可いただきたいと思いますと考えている。

(質問・意見)

なし

#### 下平委員長

先ほど事務局から、各種目詳細への質疑については、担当指導主事から回答ということで説明があったがいかがか。

(全員異議なく、了承した。)

#### 下平委員長

では、協議に入る。

協議に先立ち協議の進め方についてお諮りしたい。

私たち教育委員も、本日の教科用図書採択に向けて勉強を様々に重ねて参った。そして事務局から事前に配付された、教科用図書見本本や調査員作成の資料、検討委員作成の報告書等の各種資料も既にご覧になっていることと思う。そこで進め方としては、検討委員会から報告された「平成28年度使用中学校教科用図書調査研究報告書」に記載されている国語から英語まで15種目を1種目ごとに、どの教科用図書が最適か意見をいただきながら協議を進め、最終的に採択候補をひとつに絞っていくこととする。

委員の皆様には、検討委員会から出された報告書の内容や教科書をご覧になっての感想や意見を出していただきたいと思います。協議の進め方について、何かご質問、ご意見はあるか。

(質問・意見)

なし

#### 下平委員長

ないようなので、早速協議に入る。

では、国語についてご意見をお願いします。国語は5社から選ぶことになる。ご意見はいかがか。

#### 齋藤委員

国語の領域ということで考えていくと、まず、話すこと、聞くこと、書くこと、そして読むこと、古典、読書が領域で大事にされているが、その中で、例えば東京書籍では、言語活動を支えるということで、学びの扉、学校図書では学びの窓、そして三省堂では学びの道しるべ、教育出版では道しるべとか学びのチャレンジとか、どの教科書もみんな同じように大事に扱っているなど実感した。

光村図書は、最初に学習に入っていくときに目標、その次に学習の窓、それから振り返り、次へ繋げるというふうにして、学習を広げていく資料がたくさん盛り込まれていた。その中で、初めの教材として小学校から中学校への繋ぎというのか、言葉に出会うための単元として、少しでもギャップを減らして、親しみやすく学習が楽しくなるよう、字も大きく、言葉に出会うための単元を取り入れていた。そこで国語力の育成ができて、基礎をスタートさせることができるのではないかと思う。

その点からいくと、学習を広げる資料が光村図書は資料として結構入れてあったし、教材としては、子どもたちが学習を進んで取り入れていける、また自ら学んでいけるような学習体制が取られて、洗練された教材が選ばれて載せられていたということを実感した。

そこで、国語の力を充実させ、発展的な学びを期待でき、日常生活に活かせる、そんな力を身に付けることができるのではないかなということ、私は光村図書を推したいと思う。

### 安良岡教育長

検討委員会で、星が3つついたのは三省堂と光村図書の2社ある。その2つを比べてみると、光村図書のほうが具体的な活動例が適切に示されていて、子どもたちが何を活動していくのか、次を考えることが適切に示されていると思う。特に学びの重点、難度のところでは、書くこと話すことの学習内容が示されていて、学びを活かそうということで、学んだことが次の生活に繋がっている。三省堂も、グループ新聞等を通して言語活動の充実に取り組んでいるところは評価できる。

また、星3つではないが、東京書籍もニュースの見方を考えようというところで、子どもたちが、今、情報がたくさんある中で、どの情報を見きわめていったらいいか、考え方というものが適切に考えられるような材料が盛り込まれていて、これも良いと思う。ただ、全体的に見て、国語の教科書なので、手に持ってページを開いていくときに、光村図書は折り込みのページが一番少ない。2年生に1カ所だけなので、そういう意味で、国語の教科書として手に持ったときに光村図書はしっくりくるなと思った。

### 山田委員

今、皆様がおっしゃったことに加えて、光村図書は最後のページに色の言葉というのがあって、これは日本の色々な色彩を覚えるのにとっても良いと思う。3年生の終わりに、日本文学の流れが外国文学とともに詳しい年表にまとめられていて、この点も文学史を捉えるのに際して非常に有効だと思った。三省堂は読み物が大変充実していて、3年生で論語が扱われるなど、題材が充実しているとも感じた。そういった良さが様々ある中で、総合的には光村図書がとてもよろしいのではないかと感じた。

### 朝比奈委員

さすがに検討委員会によって、これだけ評価が高い教科書なので、遜色なく、迷うところだが、光村図書は非常に字体、フォントが見やすくできている。白い紙が何となく目に優しいような、あまり刺激のない紙に思える。こういったところも、長く使ってい

くのに、特に今の中学生はパソコン等で、私たちの時代よりは視力に関して色々トラブルを抱えているのではないかと思うので、これだけ見やすいというのは大事なポイントではないかと思う。私も光村図書をお勧めしたい。

### 下平委員長

今、朝比奈委員もおっしゃったが、私も図書は全部手に取り細かく見てきた。視覚的にも、それから手の感触的にも光村図書は非常に温かいというか、馴染む。比較してみると、微妙に紙の色等に工夫があるのかなと強く感じた。例えば学校図書は、産業とか労働とか、職業については一番取り上げてあって、今の子どもたちに職業選択への道を示唆するという意味では、これも魅力があったと思う。

三省堂に関しては、話す、聞くということに関しては非常に手厚いと思った。論理的に、そして感情に訴えるような話し方とか書き方とか、そういうことに関する思想が入っていて、三省堂も非常に良い教科書だなという感じがした。

ただ、最終的には、皆さんがおっしゃったように、光村図書には、本当に中学生にぜひ触れておいてほしい知識、読み物も豊富に、色々な視点から捉えられていると思った。

特に印象的だったのは、皆さんもそうだったと思うが、山中勉さんの『空を見上げて』という、3.11の東日本大震災のときに被災した中学生を勇気付けるために、宇宙ステーションの「きぼう」を活用して、世界の中学生たちに五七五の句を発信した。それに対して世界中の子どもたちから、それに続く七七が入ってきたという、そのあたりの文章は、本当に胸を熱くするようなものが取り上げられているので、ぜひ中学生に触れてほしいと思ったし、また、米倉斉加年さんの『大人になれなかった弟たちに』という文章も、この時代に生きる子どもたちには触れておいてほしいと思う。各社とももちろん、そういうものはどれも充実しているが、そのような観点、言葉に出会うきっかけとして、非常にうまく作られている良い教科書だなと私も思った次第である。

意見が出揃ったので、ただいまの各委員のご意見をまとめると、国語は光村図書ということになるかと思うが、よろしいか。

(異議なし)

### 下平委員長

では、国語は光村図書を選定する。

次に、書写についてご意見をお願いします。書写は5社から選ぶことになるが、委員の皆様のご意見はいかがか。

### 朝比奈委員

書道の教科書、私も仕事柄、筆を使うことが多くて、この時期、字を書く機会が多くあるものだから、このような本を見てちゃんと勉強しておくべきだったと、そうしたら仕事の効率がもっと上がったのではないかと今さら反省している。

そういう冗談はさておいて、本当にどの教科書を拝見しても当然研究し尽されているわけであるから、素晴らしくよくできている。その中からどれかをどうしても選ばなけ

ればいけないということになると、やはり検討委員会の評価した三省堂、光村図書がそれぞれ良くできていると本当に思う。改めて見ても、書道は毛筆だけではなくて、ペンで書く字も大事なことなので、そういうことも決して量の多くないページ数に盛りだくさんに盛られている。

開いてみて、整って見えるのは光村図書の本かなと私は感じた。的確な筆遣いとか、そういったものが余りごちゃごちゃしないで学べるのではないかと思うので、光村図書を推させてあげたいと思う。

### 山田委員

私も光村図書がよろしいと思った。中は本当に様々に充実しているが、一つ特徴的だったのが、最初の見開きのページに文字と出会うと書いてあって、字を書くこと、そして文字によって表現するということがどういうことなのか、生徒に考えさせるような提起があるのではないかと感じた。他はいきなり書き方だとか、持ち方、姿勢に入っている中で、改めて文字というものを捉え、考えるという意味で、光村図書がとてもよろしいのではないかと考えた。

### 齋藤委員

どの社もとても丁寧に扱っていると感じた。例えば東京書籍は盛りだくさんというか、大事な部分をポイントとして入れている。教育出版は、お手本の中心とか筆順がとても丁寧に表されている。生徒にとっても書きやすく、大事なポイントを自分でも押さえられるのではないかと。そして、日本建築と書を結びつけて日本家屋への関心を高めるとか、幅広い教育もできるような仕組みになっていた。それから、毛筆のお手本が半紙大で、左右になっているのだが、補充教材で、書式の教室でというところで手紙の書き方とか、日常生活に必要な封筒とか包み紙等の書き方が丁寧に、ともに学習できるように工夫されていた。

三省堂では毛筆のお手本が左ページになっているとか、書き初めが折り込みで実物大になっているとか、良い部分がたくさんあった。

中でも光村図書は文字の歴史を探るところがあり、それが学ぶ意欲に繋がるような表し方をしていた。それと、朱墨が使っていて、中心等の大事な部分、それから筆順も大事にしていくような指導の仕方に入っていけるのかなと、もう少し入っていても良いかなと思ったが、そのようなところを教師が工夫していくような手立てになっていたかなと思った。そこで私も光村図書を推したいと思っている。

### 安良岡教育長

三省堂は楷書と行書の筆使いについて一字ずつ比較しているところ等あるが、光村図書のほうが毛筆の楷書のところで、文字の特徴や書き方が問題形式で説明されていて、子どもたちが書き方をよく理解して使う、覚えることができるのかなと思った。

また、楷書、行書の使い分けのところでは、目的だとか、相手を意識して楷書、行書を使い分けると良いというポスター作成、また、2年生は職場体験に行くが、職場体験のお礼の手紙等が参考例として出ていて、2年生の書写で参考になる内容が出ているの

かなと思うので、私も光村図書を推薦していきたいと考えている。

### 下平委員長

これも時代の流れかなと思うが、各社とも日常の書式ということで、送り状の書き方とか、願書についても書き方が詳しく取り上げられている等、どこも充実していた。特に日常すぐに活かせるような書式を大事に取り上げていたのは、光村図書はもちろん、教育出版、学校図書も非常に丁寧だったなと思った。

私は教育出版の、金子みすゞ、宮沢賢治、樋口一葉、良寛、一休とか、著名な方々の実際の文字、原稿が取り上げられていて、これは非常に魅力的だなと思った。

ただ、前回も私がこだわったのは、最近、大学生等も見ても姿勢が悪い学生が多くて、ものを書くときの姿勢はすごく大事だと思い、ここは丁寧に扱っている。女子学生だけとか、男子学生だけを取り上げている教科書が多い中で、光村図書は両方の学生たちの姿勢をちゃんと取り上げてくださっている。それから中学になると行書を習い始めると思うが、特に行書のところが段階を追って比べられるように、光村図書は14ページに亘って丁寧に指導してあって、この指導を追いながら勉強していくと、行書がうまく書けるようになるのだろうなというところも私は評価した。

ほかに何か追加されることはなければ、それぞれの委員の意見をまとめると、書写は光村図書になると思うが、よろしいか。

(異議なし)

### 下平委員長

では、書写は光村図書を選定する。

次に、社会の地理についてご意見をお願いします。地理は4社から選ぶことになるが、ご意見いかがか。

### 安良岡教育長

社会科の地理では、子どもたちが日本だけではなく、世界の諸事情、世界の位置とか空間的な広がりとの関わりの中で、地域の規模に応じて環境だとか、人間の営みも考えて学習していくというところで、地域の特色、課題をどのように学んでいくかということが、地理の部分に関わってくるかと思う。検討委員会の報告では、帝国書院が星3つということで、東京書籍、教育出版が2つであった。

東京書籍は導入に写真で学習課題を示して、そして確認をしていくという流れで、どのところも流れを決めて取り組んでいることで、子どもたちは写真のところから学習課題を把握しながら、さらにそれぞれの地域の内容について学習を深めていくことができるだろうと思う。

教育出版は、世界の生活というところで、それぞれの気象条件の特徴的な地域はどこか、世界地図が色分けされている中で確認できる。

帝国書院は写真の解説、そして本文というつくりが2社と比べて、非常に見やすい構成になっていると思う。子どもたちが学習する中で、本文と写真や解説をうまく見なが

ら、混乱なく学習できるのは帝国書院の教科書かなと見ている。帝国書院も、各地域の特徴では色分けしたものを使っているし、また各地域の写真が大きく出ている。子どもたちの生活で身近なところでは、中華街とか、みなとみらいとか、そういうところが帝国書院の中では出ていた。検討委員会で示されたように、星印が3つある帝国書院が、私も鎌倉の子どもたちの地理の教科書としては適しているのではないかと考えている。

### 下平委員長

今、教育長がおっしゃったように、帝国書院は單元ごとに学ぶ地域とか産業に関心が持てるように、うまく写真を配置して、興味をそそる作りになっている。

あとはやはり、鎌倉の子どもたちに見てもらいたいのは、帝国書院の148、149ページのハザードマップを作ってみようというところで、鎌倉の防災に関する取り組みは、鎌倉の海岸線、鎌倉文学館の避難の様子等、写真、地図を入れて大きく取り扱ってくれている。津波が起こったときに、どのように避難するかという取り組みをまさしく取り上げていただいているというところは、鎌倉の子どもたちに見てほしいと強く思った。

### 齋藤委員

この4社を見て、興味というか、大事なところだなと思ったのが、子どもたちにわかりやすい大きな表題があったり、サブタイトルを付けたりにしているのが教育出版で、それは学習の目的が持ちやすい形になっていて良いなと思った。それから振り返るというところで、蛙さんが使ってたが、ステップワン、ステップツーと課題を確認して整理するとか、何々についてまとめようとか、何々のコーナーとか、説明がしやすい、また話しやすいような状況を作っている。もう一つは、現代の日本の課題を考えてみようという部分もあった。それも今の子どもたちに大事だなと。そして図とかグラフ、地図、本文とともに見やすい、生徒に興味関心を持たせることができる。だから、良いなという思いを教育出版に対して持った。

帝国書院は、また別の形で学習課題をはっきりさせ、目標を持たせる、それから、地図上での説明等、見分けをしながら、自分たちで考えながら扱っていけるような取り組みをしていた。それから、先ほどもお話があったが、鎌倉市のハザードマップ、いわゆる本当に身近な題材を取り上げているということで、子どもたちも真剣に考えていくのではないかと考えた。それから、地図全体が大きくきれいに掲載されていて、意欲的に取り組む姿勢を育てられる配慮がされているなど感じて、私自身も帝国書院が良いなと考えている。

### 朝比奈委員

地理的分野の教科書候補は4社しかないが、さすがに4社に絞られているだけに、どれも大きな差はないように思える。その中から選ぶ基準としては、鎌倉の中学校の皆さんに使っていただくときに、どの辺が一番興味を持って手に取っていただけるかということも、大きなポイントではないかと思う。鎌倉市のハザードマップは、ほかの委員の方からもご意見が出ているが、手に取って、教科書に自分の町が出ているということは、すごく親しく思えるきっかけになろうかと思う。

そのように見ていくと、帝国書院は、私の記憶の中でも社会科の特に地図帳とか、地図の表現においては抜き出て良かったという印象がある。絵の扱い方なども一番見やすい。私も帝国書院をお勧めする。

#### 下平委員長

今、朝比奈委員もおっしゃったが、本当にどの社も写真とかイラストとか、文字とかを工夫しているなと思った。日本文教出版とか、東京書籍も地図や写真やグラフ、イラスト等きれいで見やすいと感じた。

今の委員の皆さんのご意見をまとめると、それぞれに良さはあるけれども、鎌倉の子どもには帝国書院が良いのではないかということによろしいか。

(異議なし)

#### 下平委員長

それでは地理は帝国書院を選定する。

次に、社会の歴史についてご意見を願います。歴史は8社から選ぶことになるが、ご意見はいかがか。

#### 山田委員

先ほどの地理もそうだが、歴史や地理、私の子どもたち等を見ていると、暗記する内容が非常に多くて、それだけで嫌になってしまうという声もあるが、地理にしても歴史にしても、世界中あるいは日本列島を旅しているようなロマンを感じながら、楽しんで学んでいただきたいという気持ちを持っている。そのような視点で、歴史の教科書を読ませていただいた。

まず、特徴的でいいと思ったのが、東京書籍の年表が各章にまたがっているところである。歴史は続いているものだが、とかく教科書だと章に区切ってしまいがちで、どうしても時代、時代ごとに完結しているように記憶してしまうが、その前後関係とか、次の章への繋がりが非常にクリアに載っていて頭に入りやすいと思った。下のほうに小年表があって、これも細かい確認に有効なのではないかと感じた。私の専門のところ、例えば安土桃山時代の茶の湯の表現等は各社どうなっているのかと見渡したときに、東京書籍は比較的、深く的確に表現していたように感じた。

もう一つ、帝国書院は、タイムトラベルという見開きのページが非常にダイナミックで視覚的にも訴える。その章を進めていくときに、必ずそこに戻って、色々と議論や表現活動ができるような工夫もされていて、とてもよかったし、小学校で学んだことが年表になっているところも、とても使いやすいと思った。「歴史を探ろう」が探求心をかき立てたり、「学習を振り返ろう」というのが時代を体感できたり、「説明しよう」というところが表現活動をいろいろ達成できるように工夫されていたりという点も良かった。

あと、明治の開港については、神戸を扱うところと横浜を扱うところと分かれたが、帝国書院は横浜を扱っているということで、県下の鎌倉の子どもたちにとってはフィー

ルドワーク等をするときにも親しみやすいのではないかと感じた。

各社、いろいろ見どころ、読み応えがある中で、ちょっとユニークだと思ったのが学び舎で、こちらは一貫して世界史の中で日本史を捉えているというところが特徴的だと感じた。日本では日本史を分けて考えがちだが、歴史というのは地球全体の中で起きていることで、全体の中で、日本のこの時代のときに国外、あの地域ではどうだったのか、この地域ではどうなったかというのを関連付けて頭に入れておかないと、将来色々な話をするときに繋がっていかないので、世界との関連付けを意識して歴史を学んだほうが良い。その意味では大変面白い教科書だと思った。また、当時の人の目線で語られていることもユニークだった。しかし、資料集的にはとても面白いと思うが、やはり教科書となると帝国書院が、私は最も鎌倉の子どもたちにふさわしいのではないかと感じた。

### 朝比奈委員

私は歴史が苦手だった。覚えることが多くて、昔の教科書は開けてもこんなに楽しいように見えなかった気がして、どうも歴史というところすごく苦のイメージがあったが、本当にどの教科書を拝見しても、絵や写真が豊富に使われていて、良くできているが、かえって少しごちゃごちゃしてしまう部分も見受けられる。

私は、歴史の教科書をどれが良いか、鎌倉の中学生が見て、もっと親しんでもらうときに基準として見るのが、どうしても自分がお坊さんなので、鎌倉時代の武家のあたりをどれだけ表現してくれているかというのがポイントになる。

また、私がいる円覚寺の舍利殿の写真等、何社か使っていただいている。特に大きく使っていただいているのが教育出版で、大きな写真で素晴らしい。帝国書院では58ページに、教育出版よりは写真が小さくなるが、舍利殿とともに禅宗の座禅堂の写真が出ている。細かいことを言うと、これは曹洞宗の道場の写真なので、この表現は間違いではないかと私はクレームを言いたいが。

そんなことはさておき、こういうことが当時あって、今なお、現在の建物の様子がわかる。そういうものが未だに鎌倉にはあるのだという興味を鎌倉のお子さんが持ってくれる。歴史上のことだと思って知らないお子さんも多いと思うが、そうではなく、今でもそういうことが連綿と続いているのだと興味を持ってくれると良いなという思いも込めて、帝国書院を推させていたいただきたいと思う。

### 齋藤委員

歴史を考えていくとき、日本だけで生活していけるわけではなく、世界も大事である、世界とともに生きる日本であるということは、様々な国との繋がり等考えたときに大事なところだなと考えている。どの教科書も歴史新聞を作ろうとか、資料から歴史を探っていこうとか、タイムトラベルでどうのこうのとか、様々な工夫がされている。その中で、学び舎の日本史、世界史を読んでいくと内容の充実の感じ、また、惹きつけられるものも感じた。育鵬社も鳥の目とか、虫の目とか、歴史的事象に注目しようという工夫はされている。

しかし、私も皆さんと同じように、帝国書院が最終的には良いのではないかと考えている。というのは、何世紀頃のある場面というふうに大きく提示されていて、生徒が興

味関心を持てるような、学習へ取り組む姿を想像できるような表し方ができている。それから、学習を振り返ろうということで、学習内容を楽しみながら定着させていく配慮がされている。鎌倉時代に発展した文化の扱いも充実している。そのような様々なことを考えて、帝国書院が良いかなと思う。

### 安良岡教育長

私は、社会科の歴史分野の目標、身近な地域の歴史や具体的な事象の学習をとおして、歴史に対する興味、関心を高め、様々な資料を活用して、歴史的な事象を多面的、多角的に考察し、公正に判断するとともに、適切に表現する能力と態度を育てるという中で、東京書籍はこの時代の特色を捉えようとか、私たちの歴史探検隊等の項目で、身近な歴史を調べ、グループ内でその情報を共有して、提案していくという取り組みが良いところかなと思っている。

日本文教出版も、先人に学ぶ、あるいは歴史を掘り下げるという特設ページがあって、今日的課題の歴史的背景だとか、地域、先人に学ぶことが重視されて、自分たちの生き方に活かしていくという態度を育成できるように構成されているかなと思っている。

また、自由社も、もっと知りたい、外の目から見た日本人、人物クローズアップ等、各時代の中心となった人たちのコラムが充実していると思った。

育鵬社は、歴史の大きな流れを体感して、次の時代に象徴する歴史的な事象に注目しながら、時代の特色を掴むという構成になっているので、その部分でも、自分たちの身近なものを通して考えることができるのかなと思う。

ただ、私も他の委員と同じで、帝国書院のタイムトラベルという見開きの部分は、子どもたちの学習を導入する段階で非常に重要な役割があると思う。そして、トライアル歴史という分野のところでは、謎を探りながら子どもたちの学習が充実していくのだろうと思っている。

全体的に見て、紙面の構成等を考えると、帝国が工夫されていて、導入の部分、課題、解説、資料、確認事項、説明内容と、見開きの紙面の使い方が一番子どもたちにわかりやすく構成されているかなということで、私は帝国書院が適しているかなと判断している。

### 下平委員長

各委員からタイムトラベルというのが出ているが、例えば帝国書院のタイムトラベルは、鎌倉時代の生活の様子が本当にわかりやすい絵で描かれていて、田畑の様子、それから道路がどんなふうになっているのか、住まいの様子はどうなっているのか、このページを見るだけでも、どのような工夫がなされていたのか良くわかるようになっている。單元ごとにこういうのが作られていて、そこからイメージを広げて、興味、関心を誘うという点は、魅力的だなと感じた部分である。

清水書院は、私が学生のころから、社会と言えば清水書院というような有名な出版社で、いつのころからか教科書が全体的に大きくなったと思うが、全体が大きい中で、扱いやすいサイズは魅力の一つだなと思った。清水書院のよかったところは、戦争のところ、証言から見えてくる戦争というページが充実していて、戦争体験の方々の証言と

か、当時の手紙だといったものを挙げることで、学生自らに考えさせようという扱い方をしてらっしゃるところは、非常に良いアプローチの仕方かなと感じたところである。そのほかにも、鎌倉をうまく扱っているところは嬉しい。

育鵬社は、鎌倉の昔という取り上げ方をしてくださっている。

自由社で、私が非常に興味深かったのは、岩宿遺跡を発見した相澤忠洋は鎌倉で育った方なのだが、自分が家族に恵まれず苦労し、その影響で家族とか生活というものに非常に憧れを持っていて、そこから昔からの暮らしということで岩宿遺跡の発見に至った、というコラムがあって、上手く使っていらっしゃるなと感じた。

ただ、神奈川とか鎌倉の扱いは、全体的に見ると帝国書院が一番で、鎌倉時代のページ数も一番多く、写真も多かった。そういう意味では、各社様々な取り組みがある中で、帝国書院を鎌倉の子どもたちに使ってもらいたい教科書として推したいと思ったところである。

意見が出揃ったようなので、各委員のご意見をまとめると、歴史は帝国書院ということになると思うが、よろしいか。

(異議なし)

#### 下平委員長

では歴史は帝国書院を選定する。

続いて社会の公民についてご意見を願います。公民は7社から選ぶことになるが、ご意見はいかがか。

#### 朝比奈委員

公民は、検討委員会報告の上位である東京書籍が見やすく良いなという印象である。そっちが良いからそうじゃないものは何が悪いというか、悪い点が目立ってあるわけではないが、どれか一つを選ばなければならないという、公民という授業、また現代的なこととして、コンビニ等身近なものを例に挙げているのが具体的でわかりやすく、よろしいのではないかなと。良いか悪いかとご意見はあるかもしれないが、中学生にとってはそれが身近に感じやすい例の出し方なのではないかなと思う。色々な社会の仕組みを理解していく上でも、身近なものから入っていくというのが一つの学び方なのではないかなと思うので、私は東京書籍かなという気がしている。

帝国書院の非常にオーソドックスなつくりも捨てがたいものがあるので悩んでいるが、東京書籍かなというところである。

#### 安良岡教育長

私は全体を見ていくと、東京書籍が良いかなと思っている。小学校の学習との関連等を示しながら、地域の多くの文化財、伝統的な文化を紹介して、公民で学ぶべき様々なことを学んでいこうという姿勢が取られていると思う。バリアフリーだとか、共生社会の実現だとか、そういう内容も盛り込まれているので、東京書籍が非常に良いかなと思う。

教育出版も、学習内容をイメージさせるような主題が設定されていたり、あるいは学習課題を明示して課題意識を持って学習する、そんな構成になっている。また、帝国書院は、先ほども歴史の中であったように、教科書の見開きの構成は非常に魅力があると思う。

ただ、なかなか点差を付けにくい中で、検討委員会の報告で星が3つ付いている東京書籍を推していきたい。

### 山田委員

確かに私も、身近な題材を取り入れている東京書籍は非常に使いやすいのかなという視点で見始めたが、よくよく全編を見てみると、例えば、コンビニの経営者になってみよう、コンビニのお弁当を企画しよう、コンビニで買い物をしよう、強盗事件がコンビニで立て続きに起きたとか、一貫してコンビニを題材に挙げているところが特徴的だと思った。今おっしゃっているように、子どもたちが入り込みやすい身近な設定だとは思いますが、一方で、コンビニに偏り過ぎていないか。

他社がどうなっているのかと見比べたときに、例えば帝国書院は、ひとり暮らしをするのはどこかとか、町全体を見渡して経済活動を見ていたりという点で、もう少し視野が広い感じがした。帝国書院は、川崎市の障害者を雇用している会社や横浜市の会社を取り上げていて、鎌倉の子どもたちには親しみやすいのかなという面もある。

公民の教科書が独立するのは中学校からだと思うが、世界で活躍する日本人という見開きのページが、旬のオリンピック選手やノーベル賞の作家等、日本人が多分野で活躍しているというのが実感できるし、また、日本文教出版は、公民との出会いという最初の見開きで、夜の地球、地球を夜の風景で見て、経済活動や環境がどうなっているかを光から感じるというあたりが、とてもロマンチックで良いなと感じた。

そういう良さが色々ある中で、一番バランス良く、そして資料やグラフ、色彩が鮮明で、また、地図との連動もあり、今までの地理や歴史の流れから公民に入っていくときに非常に使いやすいのではないかと考え、私は帝国書院が良いのかなと思っている。

### 齋藤委員

私も悩んでいるところで、皆さんがおっしゃるように、東京書籍は自力解決学習に向けて楽しくできるのではというところや、現代の社会全体が抱えている大きな課題について、具体的に地図や写真等で解説しているところ等、良い部分がある。

日本文教出版は、チャレンジ公民とか情報スキルアップ等の特設ページが設けられており、また、グラフや写真、絵、資料が豊富で、それぞれの資料の中からの確に選択することができる。また、それを活用できる能力を養うことができるのではないかと考えて、日本文教出版も良いなと思う。

帝国書院は色が鮮やかで見やすいし、資料も的確だし、今迷っている。

### 下平委員長

選挙権が18歳に引き下げ、という時代だから、公民はすごく大事なところだと思う。

各社、それぞれ工夫があつて魅力的で、委員からは、東京書籍、帝国書院、日本文教

出版の名前が挙がっている。検討委員会での検討の経緯、それから三社に絞ってでも結構なので、内容のポイントについてご説明いただきたい。

### 教育指導課長

委員長からご指摘いただいたように、選挙権が18歳になるので、公民の学習については中学校できちんと学習していかなければならないと検討委員会でも話題になった。

お話のあった東京書籍と帝国書院と日本文教出版の三社について、検討委員会の様子をご報告させていただくと、東京書籍の構成は歴史の教科書と同様で、33ページ、35ページに導入部に当たるものが書かれており、例えばここは個人の尊重と日本国憲法という章で、その中で違いの違いというページが設けられていて、それから人権と日本国憲法についての流れが学習されていく、このような展開になっている。その終結部の68～70ページに学習のまとめとして、深めようというところで、アイヌ民族と先住民族との権利について扱ったり、違いの違いを追究しようという形でまとめてある。さらに学習を確認しようということで、用語のまとめが書かれている。学習の構造化がなされているので、基礎的基本的な知識や概念を確実に習得できる流れになっているのではないかという評価であった。

山田委員、朝比奈委員からご指摘のあった、コンビニエンスストアの経営者になってみようというのは話題になり、非常に身近な題材なので、経営者になってみようとか、コンビニエンスストアのお弁当を企画しようなどという部分は、生徒の興味、関心が高められるのではないだろうかという話もあった。

続いて帝国書院も、先ほどの歴史と同じように、学習が始まる前にダイナミックな絵が描かれている。例えば2ページ、3ページ、学習の前に30年前と今の社会を比較してみようということで図が描かれていて、イラストや資料の中から学習する内容を探り出して、主体的に学びができるように構成されているのではないかという評価があった。さらに、歴史も公民も見開きで一つのまとまりになっているので、例えば4ページの右下に確認しよう、説明しようというコーナーが設けられていて、一つは確認すべき内容、それから説明しようというところで表現していくというような部分が書かれているので、知識の習得と活用を図る、思考力、判断力、表現力の行く末が図れる内容になっているのではないかという話があった。

日本文教出版については、先ほど齋藤委員からご指摘いただいたように、チャレンジ公民、情報スキルアップ等の特設ページはページ数を割いて、図や統計資料等が多く掲載されているので、論理的に考える学習、それから表現力を付けるために、こういったページが有効だろうという評価であった。また、205ページには、私たちの課題ということで、レポートの作成の手引きがある。課題例を多く掲載して、レポートの作り方を具体的に提示しているところが、学習を進める上で非常に有効であろうというお話があった。

### 下平委員長

今の説明を受けて、また何か感じるところやご意見はあるか。

## 山田委員

先ほどのコンビニの件は、例えば地方でお店がなくなって、大きな道路沿いのコンビニしかお店がないという地域もあると思う。そういうところには確かに東京書籍のようなものは身近なのだと思う。ただ、鎌倉市の状況を考えると、小さな専門店だとか、例えば八百屋さん、お魚屋さん、そういったものがとても充実している町である。広い町の中で青果店等、様々な経済活動が取り上げられているという点から考えても、帝国書院は鎌倉の町のあり方に繋がるのではないかと個人的には考えている。

## 齋藤委員

先ほど日本文教出版も良いと考えていると話したが、いろいろ考えて、帝国書院が適当かなと思った。理由としては、まず、色が鮮やかで見やすいものであるということ。そして、図やその他の資料も的確なものが網羅されており、それによって比較したり、疑問を解決したり、考えを深めたりできるということ。例えばヨーロッパの様子など、地形の特色を捉えた発展学習がしやすく作られている。

ということを考えて、帝国書院は自ら進んで学習する意欲を強く持てるのではないかなと思うので、帝国書院が適当だと思う。

## 朝比奈委員

いろいろと再検討したところ、右のところに確認しよう、説明しようとするのは、わかりやすい。よその出版社も近いものがあるが、非常に整理されていて、これは良いのではないかなと思うので、帝国書院がよろしいかなと思う。

## 安良岡教育長

山田委員からコンビニエンスストアの件がいろいろ出されて、私が見ていたときは、それほど気にはならなかったが、今、お弁当を買いに行くところかなというのと、やはりコンビニに行くことが多いのかなと。そういったところで、お弁当を自分で考えてみませんかという中でもコンビニが出ているのだろうと思った。ただ、確かに鎌倉の子どもたちを考えると、鎌倉の中にはまだまだ個人で頑張って経営されているお店もある。そういうところを応援する意味でも、またコンビニエンスストアの便利なところも含め、様々な視点から子どもたちが考えられるよう、色々な題材を取り入れていったほうが良いかなと思った。

先ほど歴史のところでも言ったが、本部の見開きのつくりをもう一度比べてみると、帝国書院の方が子どもたちが学習しやすいつくりになっているのかなと。皆さんも帝国書院が鎌倉の子どもたちに適しているのではないかなということで、私も帝国書院を推薦していきたいと思う。

## 下平委員長

私が中学生ぐらいの頃を思い出すと、公民って一体何をやるのかと思いつつ取り組んだ気がするが、公民はどのようなことを学ぶのか、最初に丁寧にわかりやすく書いてあ

るのは東京書籍と帝国書院だったと感じる。それと、学生は最初のページと最後のページを意外に見ている。選挙権が18歳になるということで、公民をもっと身近に中学生に感じてもらいたい。そう考えると、最後のページで、今、社会で貢献している中学生のことを丁寧に取り上げてあるのは帝国書院である。

それぞれ各社、読み応えがあった。例えば、自由社は日本の国土の領域を最終ページで大きく取り上げている。それに対して帝国は、様々な分野に挑戦している中学生たちの姿を取り上げており、こちらの方が見ていて良いなと感じた。東京書籍のコンビニは私もすごく気になって、今まで採用している東京書籍の教科書を見たら、そんなにコンビニ、コンビニと書いていなかった。時代の流れに沿って研究して、中学生が社会を身近に感じられるようにコンビニを取り上げてくださったのだと思うが、先ほど山田委員もおっしゃったように、あまりにコンビニの話ばかりかなと感じたのは確かである。

そういう意味で、帝国書院は幅広く、色々な視点から社会に関心が持てるようになっている。それと、川崎市の事例とか、横浜市の保育所の事例とか、神奈川県を写真入りでわかりやすく取り上げているのも帝国書院だった気がする。私も帝国書院かなと感じた。

先ほど、皆さんから様々なご意見をいただき、協議していただいたが、最初に東京書籍を推していらした朝比奈委員、教育長から改めてご意見もあって、最終的には帝国書院と意見をまとめてもよろしいか。

(異議なし)

#### 下平委員長

それでは公民は帝国書院を選定する。

次に、社会の地図についてご意見を願います。地図は2社から選ぶことになるが、ご意見はいかがか。

#### 朝比奈委員

先ほどから帝国書院ばかり推して、回し者かと思われるかもしれないが、帝国書院は明らかに地図が見やすい。どちらもすごく良くできているが、私は帝国書院の方が良いなと単純に開いて思った。帝国書院を推させていただきます。

#### 下平委員長

私は個人的に、見た目がすっきりと清潔感があって、東京書籍の地図帳も好感が持てる。都市の名前も、ぱっと開いて見やすい気がした。あと気になったのが、良いのか悪いのかはわからないが、東京書籍は地図帳の区切りの扱いが、環大西洋、環太平洋、環地中海と、それぞれ大きな大洋を取り囲むような地図の扱い方をしている。それは新しい視点だなと思い、指導主事に伺ったりもしたところだが、地理は帝国書院を選定させていただいたので、地図帳と地理という科目との関連を考えると、対応している帝国書院が相応しいのかなと感じている。

## 山田委員

見やすさに加えて、帝国書院は鳥瞰図や衛星画像が取り入れられていることと、31ページを見ると、大陸から日本を見た地図がある。今まで日本は日本として見ていたのが、外から見たらどんな形、どんなふうに見えるのかが色々と空想できるような、世界の中の日本、あるいは宇宙の中の日本をより意識したつくりが変わってきているのではないかと感じるので、帝国書院がより豊かな感じを受けている。

## 齋藤委員

まず、パッと見た瞬間に見やすく、あっと惹きつけられるものを帝国書院の地図に感じた。次を開くと、やっぱり見やすい。東京書籍も、同じようにページを繰ったときに、決して劣るものではないが、パッと焼きつくものというか、次のページを開いていきたいと思ったのは帝国書院である。生徒も同じような思いを持ってくれるかなと思った。

また、学習課題、地図を見る目とか、やってみようという具体的なものが設けられていて、地図帳を活用していくためには、とても良いのではないか。正直なところ、大人になってからも使える地図だなど、ずっと大事に使っていけるものだなどと思った。子どもたちが目を輝かせて一生懸命に地図を見て、外国のことも学び、日本のことも学んでいく、そんな姿が想像できる。ちょっと楽しい思いを持つことができるのが帝国書院だった。そういうところで帝国書院が適当と思う。

## 安良岡教育長

東京書籍の地図は色が薄めに作ってあって、ページによっては見やすい部分もある。そして、高速道路は東京書籍の方がわかりやすい。高速道路を調べるのだったら帝国より東京書籍の方がわかるなどと思った。

中学2年生は、山梨県の西湖の近辺にキャンプで行くのだが、ちょうど世界遺産の富士山、富士五湖も含めた図が出ていて、子どもたちがキャンプでここへ行くのかと、非常にわかりやすいと思った。3年生が修学旅行で行くところ、飛騨高山、上高地、奈良、京都等、帝国書院の地図の103ページは、東京から大阪までが立体的に表現されていて、こういう道で、私たちは修学旅行に行って帰ってくるのだと、それぞれの土地の特徴、距離的なものも含めて、よりわかりやすい。帝国書院は、1年生の地理の学習だけで終わらずに、中学生の学校行事でも活用できるということで、帝国書院の地図が私も良いかなと思った。

## 下平委員長

修学旅行に行く人にとって、こういったものを開いてイメージを膨らませるのは素晴らしい。まさに生きた学びになりそうである。

確かに東京書籍は見やすい部分もある。車に積んでおいたら、高速道路が詳しい東京書籍、という感じで、両社ともに魅力はあるが、帝国書院ということでもよろしいか。

(異議なし)

## 下平委員長

それでは地図は帝国書院を選定する。

(休 憩)

## 下平委員長

それでは、教育委員会 8 月臨時会を再開する。

次に、数学についてご意見をお願いします。数学は 8 社から選ぶことになるが、ご意見はいかがか。

## 安良岡教育長

中学 1 年生の数学では、正負の数、符号のついた数ということで、マイナスという数字が出てくるが、小学校 1 年生で  $1 + 1$  を教えるのが難しいのと同じように、中学生でもマイナスをイメージさせるのは非常に難しいだろうなということで、どこの教科書会社も温度計と、海面からどれだけ高いのかとか、あるいは海の深さを使って、プラス、マイナスを学習するような作りになっている。ここはどの会社も同じような作りで、理解しやすくなるのかどうかは先生方の指導によるのかなと感じた。

他の部分で見ていくと、特に数学の 2 年生の図形のところで、証明をしていく中で定義だとか定理という言葉について、各社とも色分けしたりと、色々な工夫をして作られている。その中でも東京書籍が一番見やすいかなと。全体的に色を少なくして、優しい色で作られている。図形の定義、定理の意味が非常にわかりやすく、証明のところもわかりやすく色分けしてある。検討委員会では東京書籍に星 3 つが付いているが、私も東京書籍が良いかなと思った。

その他にも、星は 1 つしかなかったが、啓林館は、空間図形の証明の説明が子どもたちにはわかりやすいのかなと思った。一方、3 年生の関数の学習のところで、斜面を転がって 1 秒間にどれくらい動くのかという距離を学習するところは、啓林館だけ 0.1 秒単位で調べている。他は 1 秒単位。0.1 秒というのは、子どもたちが理解するのはなかなか難しいかなと。実際に測ることも難しいので、教科書の材料としては 0.1 秒というのはどうなのかなと思った。

全体的に見て、色分け、文字の間隔、説明の仕方等、私は東京書籍が良いと感じた。

## 朝比奈委員

検討委員会の報告を見ると、自分で学習する、自学自習が有効であると書かれているが、わからなくなっても、この教科書だけしっかり読んだらちゃんとわかるのではないかという思いで見ると、教育出版と悩んだのだが、東京書籍が一番バランスが良く、見やすくできているように思える。特に 3 年生のところは、ここまではっきりできていれば、ちゃんと教われればわかるのだろうなと思って、東京書籍を勧めさせていただく。

## 山田委員

数学は繰り返し解いて、たくさん問題を反復して行うことで身に付いてくると子ども先生に言われていることを考えると、最初に教科書を見たときに、中学レベルの問題を習得するのに、他に副教材があれば良いが、果たしてこの教科書の問題だけで足りているのか疑問に感じた。単元の内容を理解して基礎を身に付け、発展的な考えに至るまでの思考力が、これで足りるのかなと心配で、指導主事にお聞きした。余裕のある子には先生が副教材を使って問題を更に出していたり、基礎を身に付けたい子はこれにじっくり取り組んでいるということで、それぞれのお子さんに合わせた指導を授業内に行っていたらいいということに安心した。

そういう意味では、東京書籍が基礎的問題から発展的問題まで良問を含んでいると感じた。算数から数学になった途端に苦手意識を持つ子は多いと思うし、こんな複雑な計算なんて日々の生活ではしないのに、計算機を使うのにどうして頭で解かなければいけないのかと疑問を感じることも多いと思う。

そういう中で、東京書籍は日常の様々なシーンと結びつけて単元に入っていくという工夫がとてもよく出来ていると感じた。興味が惹けるのではないかと感じたし、例えば正六角形のところでは、麻の葉模様を作って美術のセンスとか、伝統的な造形の理解等にも繋がっているし、また、世界の様々な学者の話、ニュートンとかユークリッド、パスカルの話も取り入れており、いわゆる数学の教科書というより、とても膨らんだ豊かな教科書になっていると感じた。もっと数学しようとか、社会と繋がるという巻末の色々な特集はとても楽しく読めるし、自分で運賃の仕組みを考えてみたりとか、アクチュアリという私も知らなかった職業が出ていて、こんな仕事をしている人もいるのだという意味でも大変勉強になった。

大日本図書も、基礎問題が多く取り上げられていて、教育出版も興味から振り返りやってみるというステップはとても良かったが、東京書籍が良いのではないと思う。

## 齋藤委員

数学について、私も高校あたりからしんどくなったことを思い出した。そんな自分も含めて考えたときに、教育出版は小学5～6年の復習が入り、馴染み深い形で抵抗なく入れる仕組みにしている。説明する内容について、例題等で解決を示してわかりやすくして、こうやれば解けるということを示していると思った。それから、例題とか考え方、解答、また基本の確かめと、段階的に学習できるように組まれている。その後、レッツトライとか、数学的活動をして、チャレンジコーナーでチャレンジをし、楽しみながら勉強でき、定着していけるのではないかといい感じを感じた。

東京書籍は、章の扉というところで、数学の窓とか、パズルを使って学習に繋げていくとか、考えてみようというところからスタートし、そして解決していく。そこで知識と教養を深めていく中で、もう一度チャレンジして、考えを定着させるという良い部分を感じられた。それから、カラーの使い方、ただ、ここはこうですよ、ああですよと色が付いているのではなくて、ここここは繋がります。この数字とこの数字が考えられるものです。次はこれとこれですという感じで、わかりやすく色で表されているので、子どもの思考が混乱しないのではないかといい感じを感じた。そのような工夫もされているということで、鎌倉の子どもたちに適当なのは東京書籍になるかなと感じている。

## 下平委員長

私は、教科書を1カ月以上前にいただいて、検討委員会の報告を知る前に全部目を通した。数学に関してどのような視点で目を通したかという点、私自身、数学が苦手で、中学のときは全く駄目だった。鎌倉市ではなかったから言えるけれど、先生が苦手だったという点もあったかと思う。そうすると、生徒はついていきたいと思ったら教科書が頼りになる。なので、教科書だけでも興味を持って学んでいけるという視点で選んだときに、学校図書、日本文教出版、東京書籍が残った。

啓林館は、先ほど教育長もおっしゃっていたが、非常に丁寧な作りになっていて、数学の展望台とか、千思万考のコーナー等は非常に興味深く読めた。また、Math Naviブックという付録が挟み込んである。先生に、付録が付いているのは、良いようでもあり、なくしたりして悪いようにも思うがどうかと伺った。数学というものが、私たちの日々の生活に直結するのだということがわかると興味が湧いてくる。

そういう意味では、日本文教出版は数学をいかに生活に利用するかというところが、ところどころに出ているのも大変魅力的だと思った。

学校図書も、車椅子を使っている方に対する段差から、更なる数学へ誘うみたいなものがうまく使われていた。高校への架け橋というページで、中学から高校への流れも大切に扱ってくださっているという点で、学校図書も捨てがたいと思った。

ただ、東京書籍は皆さんもおっしゃっているように、多くの魅力がある。各章のまとめと学年ごとのまとめが丁寧で、そしてさらに広げる数学というところでは、広がりを持って取り組めるようになっている。それと、数学を切り開いた日本人というコーナーが、とても私には魅力的だった。日本人が世界の人々の助けになっていることに数学を活用しているというところは、数学は改めて大事なのだと実感するページだったと思う。そのような視点から拝見して、私も最終的に東京書籍を推したいと思う。

皆さんのご意見を伺うと、皆さんそれぞれ東京書籍を推していらっしゃるようだが、よろしいか。

(異議なし)

## 下平委員長

では、数学は東京書籍を選定する。

次に、理科について、5社から選ぶことになる。

最初に教科書をいただいたとき、私は理科から読み始めた。検討委員会の資料を見る前に私が丸をつけたのが教育出版、学校図書、大日本図書、その次に啓林館という順番で、検討委員会の資料を見たときに、そこまで大きくずれていないと感じた。

学校図書の中学校科学というタイトルの教科書は、見やすさ、すっきりしている色使い、中1、中2それぞれのまとめの章がしっかりしている。それと、私が良いなと思ったのは、科学を仕事に活かすというページが合間に入ってくる。身近な職業、例えばお花屋さんとか、花火師さんとか、消防士さん、ダムの建築に関わる方、それから繊維を織る、染める仕事の方、カメラマン、ドライバー、照明、音響とか、あらゆる職業の人

たちが科学を活用しているのだということが、社会との繋ぎを作るのに、職業選択に繋がっているなど感じた。

学校図書は大船のフラワーセンターを大きく取り上げてくださっている。それから朝比奈の切通しも使われていた。そういう意味でも、鎌倉の子どもたちにふさわしいかなと強く感じた次第である。各社、とても魅力的であったが、私は学校図書を推したいと思う。

皆さんいかがか。

### 山田委員

各社の教科書を見たところ、理科という表記と科学という表記があって、これは何か意味があるか聞いてみたら、文科省が理科としていると。数学はみんな、算数から数学に切り替わっているが、理科と科学で内容的には大差なかったので続けて見たところ、委員長からあったように、学校図書は、これまで学んできたことをチェックしようという、小学校の振り返りがあるところがとても便利だと思った。人間の生活というか、私たちの暮らしを考えると、理科というのは、最も生活に密着している教科の一つではないかと考える。特に大人になり、親になって子どもができると、子どもの命を預かっているわけで、健康面から始まり、何を食べさせるかということ、また、電気回路や化学反応、植物の育て方等、知っていなければいけないことがたくさんあって、子どもたちから、なぜなぜ、どうしてこうなのと聞かれたときに、内容のほとんどが実は理科に結びついていたりするので、本当にもっと勉強しておくべきだったと今さらに反省しているところである。

そういう意味で、この機会を捉えて勉強させていただいたが、学校図書は写真が非常に鮮明だった。科学の窓で、それぞれの章で習ったことへの理解が深まって、読み物としても楽しめるようなものだった。

教育出版はハローサイエンスというのが充実していて、知識を膨らませることができるし、単元末にある基礎から応用までの問題量が豊富で、色々解いて考えを深めることができるのではないかと考えた。

啓林館もコラム欄が充実しており、他にも読むところがあったのだが、昨年の小学校も学校図書を選んだと思うし、理科は小学校との連動が大きく、小学校3～4年でやったことを忘れていないのではないかと思うので、それをチェックするページがあるという意味でも、学校図書が良いのではないかと思う。

### 齋藤委員

私も学校図書を推したいと思う。単元の最初に振り返りというところがあり、これまでの学習を基にして新しい単元に入っていける。教科との繋がりも、科学の窓とか科学の歴史というような、知識を広めていくのにふさわしい取り入れがある。レッツトライやチャレンジで学習を進め、そして科学の窓で学習が充実する。このようなことによって、子ども自身が物事に対する探究心を深めていくのではないかと思うので、学校図書を推していきたいと思っている。

ただ、東京書籍も、課題があって、それを調べて実験をして、そして結果をまとめ、

解決と探究への発展的な思考に繋げるといふ、同じようなことが出ている。

教育出版も捨てがたいものがある、思い出そうというところで振り返りがあったり、予想をしたり、計画したりということで、学習の方向や課題を考えて、意図的に子どもが学習できるようにしている。

各社とも素晴らしいものを感じたが、色々検討した結果、最終的には学校図書が適切かと思う。

### 朝比奈委員

私は電気工作が小学校の頃から大好きで、電気の実験がとても好きだった。実験の箇所は決まったもので、大きな差はないように思える。その中で、どの教科書を選んだら良いか。検討委員会の報告を参考にすることももちろん多いが、適切かどうかというご意見もあるかと思うが、見た印象で決めると、私も学校図書と、あとは東京書籍が良いなと思った。

そのどちらかに絞って見ると、中学生はそろそろ、ただ科学が好きだということではなく、これがどのように世の中のためになっているとか、将来的に自分の職業に結びつくのではないかということまで考えを巡らせてみると、学校図書がよろしいのではないかなと。大船のフラワーセンターを取り上げられて、鎌倉市の写真や資料も出ていて、鎌倉市の中学校の皆に見ていただくにはよろしいのではないかと思う。その思いを込めて学校図書をお勧めしたい。

### 安良岡教育長

教科書を見ていくと、最初に植物から始まっている教科書と、物質から始まっている教科書がある。1年生の最初だと、4月に花が咲いていて植物が良いのかなと思うが、担当の指導主事に聞くと、1分野、2分野という昔の内容の中で、1分野を先に持ってきている教科書、2分野を先に持ってきている教科書があり、物質が最初に来ているものもある。学習の中身は、それぞれ担当の先生たちが学校の特徴や地域の実態に応じて決めているので、どの分野が最初に来ているのかというのは、特に影響はないのかなと思った。

ただ、理科なので、自分たちで実験をする際、理科室を使うことになる。普通の教室と違い、理科室には理科室の約束事があるが、その辺りについて、東京書籍と教育出版は理科室の決まりというページをわざわざ作って書いてある。観察のまとめや発表のところは、東京書籍、大日本図書、学校図書、ほかの教科書もそれぞれ特徴を出しながら説明している。

その中で、私も学校図書は子どもたちが見ていて一番わかりやすいのかなと思う。他の教科書は、左側のページの写真を左端に持ってきているが、学校図書は写真を左側のページの真ん中に持ってきているので、説明文が見やすいと感じた。また、特に1年生のところでは、白い粉末を各社が扱っていて、この白い粉末は何なのか、色々実験をしながら調べていくのだが、学校図書の実験の仕方、レポートの作り方、結果のまとめ方が、子どもたちにもわかりやすく、理科の学習を進めていく上でわかりやすい教科書であると思ったので、学校図書が良いと思う。

### 下平委員長

身の回りの物質から入っているのが教育出版と学校図書。学校図書は、冷蔵庫を開けた中に色々な物が入っているという導入で、子どもたちにとって身近な物質から入っている。その後、ごみの分別というところでクリーンステーションの写真が大きく載っていて、分別がなぜ必要になるのかという、今、子どもたちに知ってもらいたい課題がうまく導入に使われているなど感じた。

先ほども言ったが、各職業への興味、関心を引くように作られている点、それから身近に感じられる工夫があるということで、学校図書が様々な面で優れていたかと思う。皆さんのご意見も学校図書を推していってほしいと思う。よろしいか。

(異議なし)

### 下平委員長

それでは理科は学校図書を選定する。

ここでお昼休憩とさせていただきます。再開は13時とする。

(休 憩)

### 下平委員長

それでは、教育委員会8月臨時会を再開する。

次に、音楽について、ご意見を伺いながら選定したい。

音楽一般という科目と器楽という科目があるが、私の記憶だと、1年生のときから音楽一般も器楽も授業の中で一緒に使ったのではないかと思う。2社の教科書を比べてみても、音楽と器楽で繋がりがあのように感じる。実際に授業をしている先生としては、同じ会社のほうが使いやすいとか、そういう部分があるのではないかと思ったのだが、それに関してご意見を伺いたい。

### 指導主事

音楽一般と器楽は、教材、内容が関連しているため、同じ発行者のものを使用したいということだった。

### 下平委員長

それでは、音楽一般と器楽は関連性が非常に深いということで、一緒に選定したいと思う。

それでは、両方に亘って、皆さんのご意見を伺っていききたい。

### 齋藤委員

教育出版は、マイボイスというところで、息の流れ、響かせ方の練習が巧みに使われている。また、学習した内容をレッツ・アンド・トライで意欲的に取り組ませる趣向が

凝らされている。

教科書を開いたときも、あっと吸いつけられる色の美しさがあり、楽譜等も鮮明で見やすい。作者についてきちんと説明してくれていて、歌に合わせ、その世界に入れるような美しい写真が入っている。そして、他の教科とも繋げているところがあり、また、私たちの暮らしと音楽というページでは、日本と西洋の音楽の歩みも上手に取り入れ、わかりやすくしている。そのようなところを感じた。

教育芸術社は、自然の美しさが伝わってくるような写真も出ているが、楽譜と歌との兼ね合いを考えていくと、教育出版とはちょっと違うなど感じる。

器楽も、教育出版は教材の選択ができるようになっている。合奏も、子どもたちがのびのびと楽しめるものがある。リコーダーの他、三味線とか、日本古来の伝統ある楽器も丁寧に扱われているということの評価して、教育出版を推したい。

### 朝比奈委員

改めて拝見すると、私が中学生のとき使った教科書に、ここまで色々な国の音楽が多様に紹介されていたらどうかと驚いている。しかも、音楽の授業というと西洋音楽ばかり習っていた気がするが、伝統芸能であるとか、邦楽、日本古来の音楽に関しても触れている。勧進帳のことを教える先生は大変だろうなど、色々な知識がないとできないだろうなど余計な心配をしてしまうくらい、広く網羅されているなど思った。

どちらが良いかという話だが、私はこう見えても合唱団にいて、譜面は多少見た経験があるので、そういう観点から、楽譜として読みやすいのはどちらだろうと思うと、教育出版は、楽譜なら楽譜で、歌詞まで音符の下に追いかけるようにして出ている。

これで十分なのだが、教育芸術社は、歌詞は歌詞でまた同じページの中に縦書きになって、余計なことではないかなという気もしたので、それだけをして選ぶというのが適切かどうかかわからないが、私を見た印象では、教育出版がよろしいのではないかという気がする。

### 下平委員長

今、朝比奈委員がおっしゃったところは、大きなポイントだと思う。私自身が学んだ頃の教科書は、楽譜に歌詞が出ているのが一般的だった。私は歌詞を読んでしまうから、結局、楽譜を読めないまま成長してしまった。見開きで、歌詞がここに大きく書いてなくて、楽譜だけが大きく出ているというのは、符を追うようになるから、重要な作りなのではないかと思った。全部のページというわけではないが、そこを大切にされているのは教育出版で、これは私にとってポイントが大きかった。

それと日本語の母音の発音、これが1年生のところからしっかりと書かれていて、発声、発音がしっかりできない若者が多くなっているのも事実なので、こういうところも大切に上げているのは、とても良いと思った。

もう一つ大きく違ったのは綴じ方で、くるみ綴じのように丸く綴じてあるのが教育芸術社で、角綴じのようにになっているのが教育出版だった。音楽の先生に伺ったところ、開きやすいのは教育芸術社とのことであった。それと、教育出版には折り込みがあるが、授業のときに折り込みは使いにくくならないかということも確認した。

それらを考えても、教育出版は、1、2、3年生の全ての教科書に、若手のバイオリン奏者の庄司紗矢香さんや演出家の宮本亜門さん、津軽三味線の若手奏者の方等、若い人でも良く知っている方々が大きく取り上げられていて、その方々から中学生に送るメッセージが入っていた。これは音楽の世界を広げたり、誘ったりするポイントになるのではないかと思った。

その他、取り上げられている曲はどちらも同じようなものだったし、作曲者、作詞者からのメッセージとか、日本人の心を伝えていきたいみたいなものも同じように取り上げられていたので、本当に甲乙つけがたいというか、どちらも考えて作られているなど思った。それら全てを考え合わせて、私は教育出版かなと考える。

### 山田委員

皆さんがおっしゃったこと以外だと、例えば、エーデルワイスが両方に出ているが、教育出版は、英語の発音の仕方の補助が出ている。

また、最後の美術史だとか、音楽史、文学史、歴史の部分が大事だと私は思っているが、教育芸術社は音楽史と作曲家、作詞家が全部一緒になっているのに対して、教育出版は音楽史と作曲家の部分が別に出ているところが見やすいと思う。全部一緒に入っているとごちゃごちゃして、見切れないのかなとも思ったので、すっきりした見方という意味でも、教育出版が良いのではないかと思う。

### 安良岡教育長

自分たちで曲を作ろうとか、メロディを作ろうというところは、どちらの教科書にもあって、教育芸術社は創作学習、マイメロディというものが、教育出版は音のスケッチというものがある。自分たちでグループ活動をしながらか曲を作っていこうという取り組みの部分では、教育出版の方が1年生には取り組みやすいのかなと感じた。全体的に見て、ページの作りは教育出版の方が子どもたちに良いような感じを受けている。

### 下平委員長

皆さんのご意見を伺っていると、教育出版になるかと思うが、よろしいか。

(異議なし)

### 下平委員長

それでは音楽は、音楽一般、器楽ともに教育出版を選定する。

次に、美術についてご意見を願います。美術は3社から選ぶことになるが、ご意見はいかがか。

### 山田委員

図工の延長で美術に入ると思うが、美術の作品作りというのはとても楽しく、大きなウエイトを占めていると思う。ただ、それは感性を豊かに育てるためにも非常に大切だが、中学生ぐらいになると自分の才能の限界とか、自分は作ることがあまり上手ではな

い、絵が上手ではないという思いに触れ始める頃ではないかと思う。上手な方はとても上手だが、その辺りの差が大きく出てくる。小さい頃は、描いていること自体が楽しいという次元だと思うが、現実に触れるようになってきて、作るだけではなく、観賞して楽しむということもぜひ感じていただきたいと思う。そのためには、なるべく多くの芸術家の良い作品に触れてほしい。

また、芸術家として、作り手として大成するのはほんの一握りだが、芸術や美術、アートを鑑賞したり、語ったり、またコレクションしたりということは、より多くの方にできることでもある。そして、それを国際理解や社会貢献に繋げて活動をしていらっしゃる方も多くいる。そういうことを考えると、観賞ということも、より多くの生徒にとって大切なことなのかなと思う。そのような視点で教科書を見ていくと、美術史の流れをしっかりと理解して、自分の言葉で語れて、国際社会における教養として身に付けることが、将来色々な職業につく子どもたちにとって大事なのではないかと思っている。

各社とも、3年生の巻末に美術年表が折り込まれていて、時々の代表作とともに、国内外の美術史が色別にわかりやすく記されていた。

光村図書は、トピック美術史というのが解説も豊富でわかりやすかった。日本文教出版は、先ほど申し上げた芸術家の作品が多いという印象であった。教科書美術館もビジュアル的にわかりやすかった。2・3年生の下では美の探究という題が付いていて、巻末で美術館やアート展に行くことを促しているのも、とても良いと思った。

ただ、見た目的に、この2社は非常に光沢のある作りで、照明が写り込むような、反射するような紙質なのに対して、開隆堂はマットな印刷で、作品の美しさがより活きているのかなと感じた。

年表が最後にまとまっているのに加えて、開隆堂はルネサンス、印象派、日本に影響を受けた海外芸術家、仏教美術等、重要なトピックスにフォーカスを当て、解説が充実していると感じた。2・3年生の頭に、美術を通して学ぶ大切なことという見開きのページがあって、美術をなぜ学ぶのかと。他人と違っていること、他人と同じであること、そういう多様性を美術を通して学ぶのだということが提起されているのがとても良いと思った。この作家は、必ずしも幼少期に成功したわけではなく、非常に困難な時期を経て、今や世界に名だたるアーティストに成長したわけだが、そういった生きざま等も作品を通して考えさせられるのではないかなと思う。そういう意味で、どれもそれぞれ良さがある中で、私は開隆堂に惹かれている。

## 安良岡教育長

最初のところ、美術を通してこんなことができるというところでは、先ほど山田委員が言われたように、違っていること、それぞれ一人ひとりの思いを表現して良いのだということが書いてある開隆堂が良い。生活の中でも、色々なところで自分の夢を作品にしていくことができるというところが最初に出ている。

個人的な意見を言えば、水戸岡さんが色々な鉄道車両のデザインをしているので、それを載せてくれているのは嬉しいと思ったが、日文の図画工作、そして美術へということで、これまでの図画工作から、中学生になったら何ができるのだろうという発想を子どもたちが持っていけるような作りも良いかなと思っているところである。

日本文教出版は、子どもの声が多くあったり、子どもの見方、感じ方、そういう部分を様々に広げる内容の取り組みがあるのかなど。どこもそれぞれ特徴があるが、私の中では、日本文教出版の教科書が良いかなという思いを持っているところである。

### 下平委員長

私は最初に3冊を比較してみたときに、日本文教出版と、開隆堂に惹かれた。

これは私の個人的な考えだが、今、人間の魅力開発に関わる仕事をしていて、カラーのアドバイスをすることが多々ある。海外の方々は配色のこととか、隣り合った色がどういふ影響を与え合うのかとか、そういうことを若い頃から知っていて、ビジネスマン等も、このワイシャツにどういふネクタイを合わせて、例えば、お客様の苦情処理に行くときには、どういふスーツを着て、どういふチーフを挿していくかみたいなことは、そのような知識を活かしている。ところが、日本人はそういうところが弱い。

中学の美術の授業を受けて、芸術家になる人はごく一部だと思うが、間違いなく皆社会に出て、色々な商品開発、パッケージとか、自分自身の服の着こなしとかは商売に関わる場所である。そういう意味で考えると、色彩に関するセンスとか知識はとても大事ではないかと思っていて、昔はその辺りが中学の教科書は薄かったと思う。なので、先生方は、補助教材でその辺りを補って教えていたという覚えがある。

光村図書は昔ながらの作りで、その辺りが少ない気がしたので外した。そこが一番充実しているのは開隆堂だった。これ1冊あれば、色の知識、専門家的な配色とか、色を与える影響とか、そういうものが良く出ている。日本文教出版も、その辺りはある程度押さえているなという気がして、この両社にした。

そんな視点からも、作品数が両方とも多いということから開隆堂に惹かれていたが、検討委員会の結果を見たら星1つで、大きく私と違ったので関心を持ったところではある。美術は感性の世界なので、様々かなとは思いますが、実際に教科の先生方の教科書に対する評価、良し悪しというのは、どのくらい開きがあったのか。その辺りのことを指導主事に伺いたい。

### 教育センター指導主事

調査委員の先生方、現場の先生方からは、美術は専門性のある教科なので、先生方の捉え方、授業の進め方等様々である。なので、教科書の使いやすさ等は色々な意見が出ていた。

### 下平委員長

教科の先生方からは、好みで結構ばらつきがあったということであろうか。感性の世界なので、そういうことがあり得るのかなと思ひ、伺ってみた。

それを伺った上でどうだろうか。

### 齋藤委員

私自身も、子どもたちの参考作品がとても魅力的だと思う点で、開隆堂が良いかなと思った。心惹かれる風景だとか、色彩とか、作者の言葉とか、美しさを発見するという

意味で、生徒の参考作品が豊富である。身近な作品が多くて、意欲的に取り組めるようになっているのが開隆堂だったと思う。

その次に、日本文教出版を見た。日本文教出版は大判で扱いつらいかなと思ったが、見て感じて描く、身近なものを立体で表そう、なぜか気になる情景、心に残った出来事、材料と対話して、といった感じで、生徒自身の心を非常に引き出そうと、巧みな表現で单元名が入っている。それを考えていくと、自由な発想や意欲をかき立てられるようなタイトルがあっても良いなど。生徒自身の作品も結構出ていて、そこに作者の言葉を載せている。その作品の心、描いた子、作った子の心も言葉として表していて、開隆堂にも魅力をとて感じつつ、日本文教出版の子どもに寄り添った形を採用したほうが良いかなという気持ちを持っている。

### 下平委員長

確かに生徒の作品数が多いというのは、日本文教出版の特徴だったと思う。日本文教出版は、中学美術からの旅立ちというコーナーをとて充実して作っている。検討委員会の報告の中にもあるが、作品によって紙質を微妙に変えて、その作品の良さが際立つように作ってあるというのは、秀逸な工夫だなと思った。

ただ、私がちょっと抵抗を感じたのは、日本文教出版は版が大きい。そこが気になったので、持ち歩きとか、授業のときに不便ではないかと聞いたら、美術室の机は広いから、そこまで妨げにはならないとのことであった。大きいからこそ魅力が活きるという面では、日本文教出版は良いなと思って、こちらにも魅力を感じた。

日本文教出版は仏像がたっぷり使われているので、朝比奈委員、この辺りは言いたいところだと思うが。

### 朝比奈委員

おっしゃるとおり、強いて言えば、そこだなと。2・3年が上下に分かれているというところも、本当に色々と、盛りだくさんに紹介したいという思いなのだろうなと感じた。特に下巻の最後には仏像が出てくるし、日本の世界文化遺産、そして伝統的なお城とか、今どきのアート・インスタレーション的なこと、いわゆるアートフェスティバルの紹介も出ていて、必ずしも私たちが学んだ美術、西洋史ばかりではない、独創的な美術への興味を誘うような教科書になっているのではないかなと拝見して、日本文教出版をお薦めしたいと思う。

### 下平委員長

私たちの意見交換の中でも出ていたのは、日本文教出版は、1年生のときに身に付けておきたい、様々な技法のようなものを丁寧に取り上げているという意見もあったように思う。

開隆堂を推す声もあるが、皆様のご意見を伺ったところでは、日本文教出版かと思うが、よろしいか。

(異議なし)

## 下平委員長

それでは、美術については、日本文教出版を選定する。

では、続いて、保健体育についてご意見をお願いします。保健体育は4社から選ぶことになるが、ご意見はいかがか。

## 安良岡教育長

保健体育は、保健の内容と体育の内容に分かれているが、その中で、東京書籍は学年ごとに保健体育という内容で、1年生、2年生、3年生という分かれ方をして、他は保健分野、体育分野と分けている。その中で、東京書籍の学年ごとに分けたやり方は、非常にわかりやすい。説明文はゴシックが細めで、他よりも見やすいかなど。イラスト等も見やすい作りになっていると思う。

それぞれ、どの教科書も、学習した内容を活用して、皆で考えて意見を出し合う活動に取り組まれている。東京書籍、大日本図書、大修館、学研みらい、特に保健は自分だけがわかっているのではなくて、皆でどういうことを今後取り組んでいったらいいのか、自分の考えをまとめて活動させるというものは、それぞれ取り組んでいく必要があると思うが、各社これは取り組まれている。その中で、子どもたちがそういう話をしていくときに、東京書籍は資料が充実しているなど思っている。

また、保健のところ、中学生になると欲求不満とか、色々な状況があるが、東京書籍だけ、いらいらした表情のイラストがなかったように思う。子どもたちはいらいらしたり、怒ったりもするけれど、教科書にそういうものがなく、こういうときに人間としてどういう対応をしたら良いのかというときに、いらいらした表情だとか、怒った表情がないのは、子どもにとっては良い教科書だなと思ったので、東京書籍を推薦していきたい。

## 齋藤委員

私も同じく東京書籍が良いかなど思っている。健康的な面とか、体の発育、発達に関する点についても、とても丁寧に扱われており、資料、図、表等の表示が適切にされている。例えば、けがの応急手当もこうやると良い、こうするように気を付けていこうというのが表れていることは、日常の中で役に立つ。この資料自体、たくさん書かれているが、先生と生徒の間で必要なこと、大事なことをポイントとして押さえて、カリキュラムを組むことができるのではないかなど思う。良い活用ができる方法が、ここにたくさん入れられていると感じた。

松井秀喜の『いじめられている君へ』という、立ち向かわなくても良いという温かい言葉もある。あなたの生きようとする力、命の大切さを、この教科書を通じてわかり、また教えてくれる教師との関係もうまくいき、心も体も健康に育つことができるのではないか。そのようなことが盛り込まれているのは東京書籍だなと思ったので、推したいと思う。

## 朝比奈委員

前日も、私は学研みらいのイラストが非常に見やすい、明るい絵で、わかりやすいという印象があった。ただ、皆さん、東京書籍を推されている。私も改めて見てみると、教育長が最初におっしゃったように、どちらも体育編と保健編に分かれて、学年ごとにタブがあって、後で見返したときに調べやすい。

東京書籍は、中学校を卒業した後でも、資料としてとても役に立つ本になり得るなどという気がする。授業に使うばかりではなくて、何かのときにどうしたら良いかということ調べるのにも、良くできたものではないかと思う。特に一覧表はどの本も工夫がされているが、教科書の使い方のところを見てもわかりやすいので、東京書籍がよろしいのではないかと思う。

### 山田委員

私もどれかという、東京書籍がよろしいと思う。ただ、保健体育は他の教科と同じぐらいの厚みがあるが、学校の時間数は体育が中心だと思うので、こんなに消化し切れるのかなと心配になった。色々な教科と多く重なっていて、理科とか、技術・家庭とか、社会、公民みたいなものとも関わっているし、もしかしたら、他の教科の中でもできることがあるのではと思った。

一方で、朝比奈委員がおっしゃったように、中学の間だけではやり切れないかもしれないけれど、将来、必要ときに振り返ったり、改めて知識を深くするというような使い方もできると思うので、大事に使ってほしいと思った。

### 下平委員長

私も東京書籍と学研みらいが良いなと思って見ていた。4社とも全然構成が違って、先ほど教育長もおっしゃったが、東京書籍は1年、2年、3年で、それぞれ保健編、体育編と組んでいて、学研みらいは保健編から入って体育編へ、大修館は体育編から入って保健編へと、各社で違っているのだなと興味深かった。

私が学んだ頃は、保健の授業は男の子と女の子が別に受けていたこともあった気がするが、今は恐らく同時に受けるのだと思う。そういうことを考えると、女性、男性それぞれの体内図みたいなものが、どこも描かれているのだけれども、それを比較したときに、東京書籍はすごく描き方がうまいというか、リアルだけどリアル過ぎず、すっきり清潔感を持って見られるような感じになっている。人体図の取り上げ方も、色使いとか、綺麗に取り上げて、変な話が湧かないように作ってあり、素晴らしいと思った。今の時代、これからの子どもたちを良く考えて作ってあるなと思った。ストレス対処法とか、コミュニケーション力の磨き方とか、どうコミュニケーションするのかとか、笑うことがいかに心と体の健康に重要なのかということ、そういったことが漏れなく、大事なところを押さえてある。性的関心とか、異性を尊重することとか、社会性の発達、自己形成等、今の中学生が知っておきたいことを丁寧に扱っているのは東京書籍かなと強く感じて、評価できると思った。他社も扱っているが、その辺りの扱い方、取り上げ方がとても良いと思った次第である。

皆さんのご意見も東京書籍ということで一致しているようなので、よろしいか。

(異議なし)

#### 下平委員長

それでは、保健体育は、東京書籍を選定する。

続いて、技術・家庭の技術分野についてご意見を願います。技術は3社から選ぶことになる。技術の先生でもあった教育長からご意見を伺いたい。

#### 安良岡教育長

技術については、自分で何か物を作るというところが大きな学習の一つになるので、作業を安全に進めることが大切になる。安全な作業ができるのかということについて、教科書にあるかと見ていくと、東京書籍は、実習を楽しく安全に進めようということで、服装や、作業する部屋の実習におけるお互いに守る約束事、作業の中で特に注意をしなければいけない点、こういうものが丁寧に記載されていると思う。開隆堂もガイダンスの中で、そのような説明がされていると思う。技術科の授業が始まる時に、こういうことをみんなで守っていこうと話して、理解していくということが大切になってくるので、教育図書は、その部分がないのが残念だなという思いがある。

中身を見ていくと、特に技術科は、材料と加工に関することとして、身の回りにある様々な材料をうまく加工しながら自分に必要なものを作っていくというところで、材料の使い方、加工の仕方、そして自分が使いたいものをどのように作っていけば良いのかという説明は、東京書籍が一番わかりやすく、丁寧に作られていると思う。写真の配置の仕方とか、選ばれている写真の種類、そういうものは東京書籍が良いかなと思う。

もう一つは、エネルギーの分野で、運動エネルギーとか、電気エネルギー、それをどう変換して使っていくのか。内容が豊富で、実際の授業の中では全て行うことはできないため、この中から学校ごとに題材を選んで取り組んでいくのだが、そう考えると、色々な種類のものがわかりやすく記載されているものが良いのかなと思う。そんなところで、私は東京書籍の教科書が非常にわかりやすく、子どもたちも自分で選ぶことができる、様々な内容が盛り込まれていると判断している。

#### 下平委員長

確かに制作過程がとてもわかりやすく、見やすく作られているのは東京書籍だと思う。ただ、私が1箇所気になったのは、東京書籍だけ判が大きい。それは技術室も机が大きいので問題ないということか。

#### 安良岡教育長

大きな作業機でやることもあるし、教室で授業をやってから作業に移行ということもあるので、特に問題はないかと思う。写真をたくさん載せる関係上、どうしても大きくなるのだろうと思った。

#### 朝比奈委員

私も技術的なことは大好きなので、非常に興味深く、懐かしく拝見した。あの頃、こ

これまで専門的に学校で教えてもらっていたのだろうか。いつか、僕は電気工事士になりたいとか、あるいは農作業のところもあるので、将来の職業選択にも結びつくような授業なのだろうと思う。その点で、とても大切な科目だと思う。

今、教育長がおっしゃっていたように、3社それぞれ特徴があるが、私の個人的な意見を申し上げますと、東京書籍が抜き出ているのではないかという気がする。情報量もたくさんあるし、大変見やすい。大判であるのはデメリットではなくてメリットであると私は理解する。これもさっきの保健と同じで、後で見返しても大変おもしろい、楽しめる本になっていると思うので、私は東京書籍を推させていただきますと思う。

#### 齋藤委員

私も同じく東京書籍でお願いできたらと思っている。というのは、量的にも良く、見やすい。細かく丁寧で、たくさん資料があると良い方に捉えていくと、基礎、基本がしっかり押さえていける。自分なりに読んで、ああ、こうなのだと感じることもできるものになっている。学べる仕組みがきちんとできているなと感じた。

この教科書を使いながら教師が選択し、何を指導していくか、子どもに何を学ばせていくかというところで指導計画を立てて進めていくと、ぴったりと良いものが作れ、良い子どもたちが育っていくのではないかなと思わせてくれる教科書かなと思っている。

#### 山田委員

皆さん十分おっしゃっていたが、私も東京書籍が充実していると思う。ただ一つ、先ほど教育長もおっしゃっていたが、ここまでできるかなという心配は、先ほどの保健同様である。

コンピューター関連の解説が詳しく、それも今の時代に即していると思うし、この3社の中では、東京書籍が良いと思う。

#### 下平委員長

東京書籍は時流を大事にするところなのかなと感じた。保健体育もそうだし、コンビニを取り上げた公民もそうだった。今回も『宇宙兄弟』からテクノロジーというところに持っていつているし、そういった研究を多くしている出版社なのかなと思った。

今の皆さんのご意見から、技術に関しては東京書籍ということによろしいか。

(異議なし)

#### 下平委員長

では、技術は東京書籍を選定する。

次は、技術・家庭の家庭分野について進めたい。技術・家庭は中学の場合、教える先生が違う可能性もあるため、同じ出版社にこだわらなくてよろしいということによいか。

#### 安良岡教育長

技術・家庭科という教科であるが、免許状は技術、家庭科で別々であるので、この教

科書も、技術と家庭とそれぞれ分けている。今回の調査も、技術の先生方、家庭の先生方が別々に調査し、検討委員会に出したところである。

ただ、同じ教科書会社でなければいけないことはないが、鎌倉市では技術も家庭科も一人の先生が全て教えている学校が多いので、できれば同じ教科書会社のほうが、先生としても使いやすいのかなと思う。

それは別として、家庭分野の教科書についてだが、東京書籍、開隆堂、教育出版では、ちょっと作りが違う。

東京書籍は食生活、衣生活、家族、消費生活という入り方をしている。また、家庭分野においても実習があるので、最初にガイダンスが付いており、実習の安全について書かれている。

開隆堂は、家族、食生活、衣生活、消費生活ということで、学習する順番が違う。家族というところでは、自分が一人でここまで大きくなってきたのではなく、自分の成長とともに、家族との繋がり、あるいは地域の中での家庭のあり方とか、そういうものも含めた家族というものを学習していくことになるのだが、中学校に来て新たに学習する中で、初めからこの部分を学習するのは難しいかなと思う。そうすると、食生活ということで、自分たちが食べている食事がどうなのだろうか。鎌倉の中学校はお弁当を持ってくることになるので、自分のお弁当を見て、どうい食生活になっているのだろうかというところから入っていくのが、家庭分野では良いのかなと思っている。

食生活について、東京書籍は、この辺りの料理で、佐島のへらへら団子が載っている。開隆堂はけんちん汁が載っている。神奈川のそれぞれ特徴的な料理を載せていただいているというところである。

また、調理実習のでき上がりの写真はどれが良いのか、この前の採択のときも色々ご意見をいただいたが、東京書籍は写真と分量が別になっている。開隆堂は、でき上がったおかずのところに分量が重なってしまっている。見た目では、東京書籍のほうがわかりやすいかなと。東京書籍も開隆堂も見開きのページで作る順番を表示しているので、どちらも作業の順番はわかりやすい内容になっていると思うが、分量、あるいは作る手順、見やすさを追っていくと、食生活のところでは、東京書籍が良いのかなと思う。

家族の分野では、幼児の成長と体験ということで、中学生が幼稚園、保育園に実習に行き、どういう風に子どもたちと遊んでいくのか、繋がりを持っていくのか。あるいはおもちゃ作りをどうしたら良いのかという点では、どちらも特徴ある内容で作られているので、さほど違いがないと思っているが、全体として見ていく中では、東京書籍の内容、教科書の作りは、鎌倉の子どもたちにとって適していると思っているところである。

## 朝比奈委員

私も、判が同じ方が良さそうと思う。東京書籍は、教育長がおっしゃったように、何しろお料理がおいしそう。加えて、説明もわかりやすい。写真と文字のレイアウトがとても良い。手元に置いておいて、参考にするのにも良いと思う。栄養価とか、食生活とか、将来、大人になり家庭をつくっていく上で大切なことが学べる、本当にすばらしい教科書だと思う。授業数は少ないだろうと思うが、卒業してからもこれを頼りに学び

を深めていくことができる、そういう教科書だと思うので、情報量の豊かな、レイアウトのすばらしい東京書籍を私は推したいと思う。

#### 齋藤委員

私もお二人がお話されたように、東京書籍が良いと思う。一つひとつがわかりやすく具体的であり、子どもたちが読んで納得できるものである。次に、家庭でも使える、そんな表記がされているということで、東京書籍を推したいと思っている。

#### 山田委員

私も東京書籍がよろしいと思う。最初の方に出し汁の取り方をしっかり紹介しているのが特に良いと思う。それに対して、他はホットケーキだったり、お肉を焼いたり、どこかに入っているとは思いますが、最初に調理に入るときには出し汁からやってほしいなどという願いもある。全体的な充実を考えて、東京書籍が良いと思う。

#### 下平委員長

確かにメニューが豊富で、おいしそうに見えるという観点から、東京書籍は惹かれるものがある。

それから並び順、各社が家庭生活から子育てに入っていく流れは、女性だけが家庭を受けていた時代はそれで良かったのかもしれないが、食生活、そして衣類という流れで、最後の方に家庭、子育てが並んでいくという流れは、中学生にとっては取り組みやすい、自然な流れで誘われているのかなという気がした。中学生ぐらいの男の子に家族というと、抵抗を持っている子どもが多い年代だし、子育てになってくるとなおさら、赤ちゃんの抱っこも大事だが、ちょっと抵抗を持たないとも限らないと思ったので、その点でも東京書籍は良いかなと思う。

では、皆さんのご意見は東京書籍ということでもとまっているので、よろしいか。

(異議なし)

#### 下平委員長

それでは、家庭は東京書籍を採用する。

では、続いて、英語についてご意見をお願いします。英語は6社から選ぶことになるが、ご意見はいかがか。

#### 山田委員

4年前に採択して、現在使っている学校図書の「TOTAL ENGLISH」は、この6社の中でも一番寸法が小さくコンパクトで、ビジュアル的にもガイドブックのような実用的な作りになっていて、どちらかというところ初心者に親しみやすいのかなという印象を受けた。その意味でも使いやすいと思って、4年前に選んだのだが、この4年間で英語を取り巻く社会環境は大きく変化している。小学校に英語活動が入ってきたり、ITは日々進化していて、私たちも、子どもたちも、英語に関わる機会は刻々と変化していると思う。そ

の状況下において、もう一回見直しをしてみると、学校図書よりももう少しハードルを上げていきたいという思いが出てきた。

他の教科書を見ていったとき、全体の中で私が一番良いと思ったのが光村図書の「COLUMBUS 21」、こちらは最もネイティブの英語の教科書に近い作りになっている。実用的な英語を考えたときに、初心者にとって必要な単語が効率良くたくさん掲載されている。CLILというコーナーで、技術・家庭と英語とか、世界史と英語というような教科をまたいだトピックが豊富にあって、英語をどうやって使っていくのかという辺りが充実しているのではないかと思う。また、3年間を通して読み物が突出して豊富で、特に3年生の長文がとても充実している。具体的には、3年生のUnit 6というところで、世界中の中学生の交流の場をウェブで開設した中学生の話とか、環境問題とか社会問題、グローバルな社会について、非常に考えさせられる題材を取り上げている。これからの社会のグローバル化とか、文科省の目指す英語教育の水準を鑑みると、これぐらいの読解量と、内容の深さを鎌倉の子どもたちには頑張ってもらいたい。

一方で、英語は苦手なお子さんも多いと聞いている。そういう生徒は途中でつまづいてしまうと、この教科書に関しては次に進みづらい作りになっていると聞いた。そういった意味では、良さを取り入れながら、「COLUMBUS 21」に近いのが「NEW HORIZON」の東京書籍と、「NEW CROWN」の三省堂かなと思う。

その2社の中では、三省堂は3年生の読み物が、先ほどの「COLUMBUS 21」と同様に充実している。「NEW HORIZON」もそうなのだが、色々な世界の紹介や、諸問題を読んで考えて、ディスカッションする、プレゼンする機会を与えている。三省堂は辞書を出版している会社でもあるので、ボキャブラリーが充実していて、そして文法の解説がわかりやすいと感じた。1年生の最初の見開きで、英語を学ぶ意義が書いてある。地球という舞台上で言葉を使うことは思いを伝えること、学ぶことが可能性を広げること、関わることは認め合うこと。英語を通じて可能性を広げて、多様性を受け入れるという趣旨が明確に提示されている。そういう意味で、私は、三省堂の「NEW CROWN」が良いのではないかと思っている。

複数の教科書に、私たちの住む町を紹介しようというものがあるが、鎌倉はせっかく海外からの注目の高い町なので、そういった町に育っている鎌倉の子どもたちには、ぜひ鎌倉の魅力を英語で伝えられるように育ってほしいと思う。

## 朝比奈委員

鎌倉の魅力を英語で伝えられたらどんなに良いか、かねがね自分の仕事を色々な海外の方に紹介できるだけの英語力をなぜ身に付けなかったのかと思う。当時の先生のせいにはしないが。

どんな授業を今の中学生がしているか、昔と同じなのか、違うのかもあまり覚えていないのが現状だが、先ほど、英語ができる山田委員だからこその視点で、「NEW CROWN」とおっしゃっていたのだと思うが、学校教育なので、どうしても差が大きいとは思っている。

その際、ついて来られなくなってしまった人が、とても僕はわからないという本ではなくて、何となく楽しく学べるような作りがよろしいのだろうなと思って、どれを選ぶかという、三省堂は表紙もすっきりして、外国の方の写真が多く出ている。これも、

外国が苦手な方は抵抗があるかもしれないので、イラストぐらいがちょうど良いのではないかなという気もするが、どれを選ぼうかといったときに、これが一番、どなたにも受け入れられるものになるのではないかなと思うので、三省堂がよろしいかと思う。

### 齋藤委員

朝比奈委員もおっしゃっていたが、今の小学生が中学生になったときに、どういう反応をするかなと思ひ、私は最初、学校図書が良いかなと思った。それは、とても単純に、一つひとつを丁寧に扱っており、イラストもあって、これだったらわかる子はどんどんいけるかなと。ある程度のレベルで考えていったときに、これが良いかなと思った。

しかし、改めて色々な会社の教科書を見て、もう少しレベルアップを考えるなら三省堂が良いかなと思う。子どものことを思い浮かべながら見ていったときに、私は何々であるというポイントがあって、次に基本的な学習を積み重ねていながら、生徒が興味を持つような内容を扱って、そして読んで理解して、最後は朗読劇までいく。何気なくやっていることが、いつの間にか身に付くことに繋がっている。ゆくゆくは横文字に抵抗がなくなって、長文にも親しめる流れになっているのではないかと強く感じた。

それから、ワードバンクというのが絵入りで書いてあって、語彙を増やす工夫もされている。何気なく親しんでいるうちに覚えていき、ハードルは高くなり、普通になり、もっと頑張っていこうと子どもが育ってくれるのではないかなと思って、三省堂の「NEW CROWN」を推したい。

### 安良岡教育長

私も開いて見ていくと、色使いや文字の大きさ、それから皆さんがおっしゃっているように、もう一度自分で振り返って、見直して勉強するということを見ていくと、「NEW CROWN」の三省堂が良いのかなと思う。

1年生のところで、車椅子バスケットとか、ゴールボールとか、そういうところも紹介している。「TOTAL ENGLISH」でも、点字のところを表示していただいている。それぞれが工夫されている中で、全体的に三省堂が良いなと思っていた。

### 下平委員長

私も若い頃、客室乗務員として世界中の方々と触れ合ったのだが、そのとき本当に情けない思いをしたのは、中学からあんなに苦勞して英語を勉強してきたのに、なぜ話せないのかと、びっくりするぐらいの衝撃だった。他の国の人たちは普通にコミュニケーションしてくるのに、なぜできないのだろうともすごく痛い思いがあった。

そんな視点から改めて中学校の教科書を見ると、学校図書の「TOTAL ENGLISH」はとても丁寧で、良くできた教科書だと思うけれども、私が学んだ頃の中学の教科書と余り変わっていないのである。鎌倉は割と英語レベルが高いと思うし、時代もこれだけ移っているのだから、もっと本格的に英語の教育の仕方は考えなければいけない時期に来ているのではないかなとつくづく感じる。

山田委員もおっしゃったように、光村の「COLUMBUS 21」の長文を中学生が読めるようになれるのが、ある意味では理想といえば理想かなという気もする。そこまで近づいて

いくためにも、レベルを少しずつ上げていきたいという感じがした。

どちらも魅力はあったと思う。学校図書も、確かに長文読解は少ないが、書いていく学習は段階を追って丁寧に学習できるような作りになっている。アクセントや発音に関しても、わかりやすく丁寧に作ってある。使いやすいサイズでもあるし、学校図書も良いのかなと思った。

ただ、さっき言った視点で、各学習を段階を追って指導していくのであれば、学校の先生が黒板を使いながら指導していくことはできる。読みものとして良いものが豊富にあれば、副教材を使わなくてもこれでいけるわけで、三省堂は、社会問題、人権とか、平和を扱った、それなりに読み応えのある文章が充実していたと思う。読んで理解というコーナーでは、読んで理解した上で、それを発表に繋げていく、即興劇に繋げていく、プレゼンテーションに繋げていくという流れも丁寧にできていたし、文法解説も丁寧だった。そういう視点から、色々迷いはしたが、やはり三省堂が良いかなと私も思った。

今、ご意見を伺ったところ、皆さんも迷われて、それぞれ良さを検討して下さったが、三省堂ということで一致していると思うが、よろしいか。

(異議なし)

#### 下平委員長

それでは、英語は三省堂を選定する。

以上で全種目についての協議を終了する。

ただいまの評議結果を基に事務局に資料の作成をお願いし、議案第20号の審議に移りたい。

ここで、事務局資料作成のため、休憩とする。

(休憩)

#### 下平委員長

それでは、教育委員会、8月臨時会を再開する。

## 2 議案第20号 平成28年度使用中学校教科用図書の採択について

#### 下平委員長

日程第2、議案第20号「平成28年度使用中学校教科用図書の採択について」を議題とする。議案の説明についてお願いします。

#### 教育指導課長

日程第2、議案第20号、平成28年度使用中学校教科用図書の採択について、その内容を説明する。

平成28年度使用中学校教科用図書を先ほど種目ごとに選定していただいた。それらを一覧表にまとめた、お手元の平成28年度使用中学校教科用図書一覧(案)、9教科、15

種目のとおり、採択するものとして提案をする。

(質問・意見)

なし

(採決の結果、議案第 20 号は、全会一致で原案どおり可決された)

**下平委員長**

以上で、本日の日程は全て終了した。

これをもって、8月臨時会を閉会する。